

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300164		
法人名	医療法人 栄心会		
事業所名	さかえライフハート美術館通り		
所在地	福島県郡山市字下館野11-1		
自己評価作成日	平成25年1月25日	評価結果市町村受理日	平成25年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは小規模多機能と併設しており、好きな時にいつでも行き来できる為、毎日の体操やレクリエーション等の他、週2回作業療法士のプログラムに参加していただきながら、小規模多機能の利用者とも交流を深める事ができます。また、そういった交流を通じてお互いが顔なじみになっていくことで、歩行訓練を兼ねた施設内の散歩時に利用者様同士が声をかけ合ったりする姿が見られたりと、活気ある生活を送っていただくことができています。

医療面においても、クリニックが母体になっている為、医師や看護師にいつでも相談できる体制がとられていますので、ご本人様はじめ、ご家族様にも安心していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、事業所の真向かいには同法人運営の特定施設入居者生活介護施設があり、近隣に医療機関があるため、災害等の緊急時応援体制が整っており、また、健康管理や医療面での安全が図られている。

2、利用者の重度化に伴い、今後看取り介護の必要性が求められることから、看護師を配置し終末期の生活支援に関する基本的な考え方や看取りの実施移行に向けた対応等を詳細に記載した指針に基づき、職員間で研修しチーム全体で支援する体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内には理念を掲示しており、その理念に沿ったケアが提供できるよう、職員一丸となり取り組んでいる。また、新人職員にも入社時に理念を伝え、同じ考えで取り組んでもらっている。	住み慣れた地域の中で利用者の尊厳を保ちながらその人らしく生活するための支援を基本理念に掲げ職員は理念を共有し実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に法人が加入している。また、ボランティアや、保育園等の協力を得て地域との交流を続けている。今後はさらに地域に根差した施設となれるよう、その方法を模索中である。	新興市街地であり直接的な住民交流が難しい地域でもあることから、町内会長を通して地域行事を把握し参加したり、事業所主催の行事参加への呼びかけを行ったり、近くの保育園児を行事に招待し利用者との交流を図るなどして地域交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や面会に来た知人や友人の方から相談があった際には、その都度アドバイスをさせていただいている。その他法人内グループとの連携を取りながら相談時には対応していきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業運営内容の報告や、行事等の報告を行っている。その際、委員から頂いたアドバイスを活かしサービス向上に努めている。今後は、より活発な意見交換ができるよう議題等も検討していきたい。	事業所の情報や利用者の状況等を開示し、委員からも積極的な意見要望が出ており、運営推進会議が効果的に実施されている。地域の代表者からも避難訓練時の協力体制についての意見が出ており活用についての検討がなされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や、家族・利用者からの相談について助言・回答をいただくため、月に数回、市介護保険課を訪問しており、その際情報交換等もおこなっている。	行政との連携は密に行われており、ケースに対する助言や事務処理等のアドバイスを得ながら適切な対応を行っている。月2回訪問の介護相談員を介して情報等の交換をしながら行政との連携を円滑に行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながるような行為は行わず、玄関も施錠はせずに、見守りや職員同行での外出等にて対応している。今後は「身体拘束をしないケア」についてより一層理解と実践を深められるよう、職員の研修をおこなっていききたい。	身体拘束廃止マニュアルのもとに職場内研修を通して身体拘束をしないケアを実践している。言葉による抑制についても十分留意し利用者の尊厳を重視したケアに努めている。玄関の施錠もしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常業務の中で、虐待につながるような言葉づかいになっていないか、また行動として態度に出していないか等、常に職員一人一人が注意しながら意識してケアにあたっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ参加する等して、制度について学習している。現在、制度を必要とする方はいないが、必要時には活用できるよう、今後も学習・研修等への参加をおこなっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項や契約内容等についての説明をおこなっているが、その際、家族・利用者に理解・納得していただけるよう、丁寧に分かりやすい説明を心掛けており、また、疑問や不安な点がないか、その都度確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族からの意見や、各居室に備え付けた「意見・要望用紙」にて頂いた意見・要望等については、その都度職員で話し合い、すぐに対応できるようにしている。	家族や外来者からの意見を取り入れるための居室に「意見・要望」用紙を置くなどして運営に反映させるよう努めている。家族からは感謝の言葉が多く現在記載はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや委員会会議・全体会議を定期的に開催し、職員から提案された事案等については、優先順位を踏まえ改善を行っている。その他、些細な意見に対してもいつでも相談できる体制が整っている。	毎月1回の事業担当の委員会会議や2か月に1回の職員全体会議で、職員の意見・要望を聞く機会を設けている。行事予算の配分については委員会の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援を行っている他、職員の能力等に合わせて段階に応じた法人独自のキャリアアップシステムを導入しており、職員一人ひとりが目標を持って取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いての内部研修の開催、個々の能力に応じた外部研修への参加を積極的に行っている。また、外部研修参加職員から、内部研修として勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会へ加入しており、研修参加時には他事業所の職員と交流を図るよう努め情報交換・共有をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談依頼後は、ご本人と直接お会いしてサービスの説明をし、要望・不安等をお聞きして、新しい環境となることに対しての不安が軽減できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなく、ご家族の要望・現在困っていること・不安な事を傾聴し、どのようなケアが提供できるか説明を行い、相談・確認しながら信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族の現状や要望を踏まえ、今現在必要としている支援を見極め、必要なサービスが提供出来るよう法人内外の事業所間で連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する側・される側」という一方的な関係にならないよう、調理を一緒にして頂いたり、洗濯物たたみ等の役割を持って頂いたり、時にはご本人から教えて頂くような場面を作って関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人の様子をその都度報告している。また、遠方のご家族で定期的な面会が難しい方については、電話連絡等行い予定を確認しながら、ご本人とご家族の交流が図れるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や教え子等の面会時には、ゆっくり一緒に時間を過ごして頂けるように配慮している。また、継続して面会に来ていただけるような雰囲気作りを大切にして、馴染みに関係が途切れないよう努めている。	家族・知人等の面会時には居室にお茶を運ぶなどしてくつろいだ雰囲気づくりや、継続した馴染みの関係づくりに努めている。馴染みの美容室を利用している方には関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの状況や状態を把握し、ご本人の意思を尊重しながら、その場面や状況に応じて交流できるよう職員が介入して、孤立しないような雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要時はいつでも相談可能であることをご家族へ伝えており、柔軟に対応できるよう体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日常的な行動や言動を観察し、一人ひとりの思いや希望を把握し、ご本人の立場に立ったケアができるように努めている。	家族からの情報や日常的な言動から利用者の意向把握に努めている。今後は東京センター方式を一部活用し家族の協力を得ながら困難なケースについても、適切に思いや意向把握を行うこととしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に情報を収集、職員間で情報を共有しケアにあたっている。また、入所後も日常のご本人との会話の中からエピソード等を伺ったり、面会に来られた方等からもお話をお聞きしその後のケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録だけではなく、カンファレンス・申し送り等を通じて入居者の現状の把握に努め、個人の心身状態に合わせた支援と活動ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要関係者の意見を取り入れ、定期的にカンファレンスを行っている。全員が出席出来ない場合には事前に意見を出してもらい、全員で検討できるようにして、現状に即した計画を作成している。	介護計画は利用者の課題や意向を反映しており、支援内容も具体的である。しかし、サービス提供記録としての介護記録には、利用者の言動・行動の記録のみであり、どのようなサービスを提供したか具体的なサービス内容の記録が乏しいため、モニタリングを行う場合の根拠が明白でなかった。	介護計画の支援内容に基づき、職員は具体的に提供したサービス内容を記録することが求められている。また、記録内容を基に職員間で検討し利用者・家族の意見等を取り入れ計画の見直し等を行うことが適切である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画の見直しは定期的に行っている。入居者の状態に変化が見られた時には職員全員が把握するように努め、話し合いのもとケアプランの変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるように、意見や要望等を把握し、他業種との連携が図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター・民生員の他、地区の町内会長に参加していたいており、グループホームの理解と協力が得られるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を優先している。入居者様のほとんどが当法人のクリニックを受診しており、定期的な往診体制をとっている。他科受診時には受診援助を行い、経過報告等をご家族・主治医に行っている。	法人運営の医療機関利用者が多いが歯科等他科を受診する場合は職員及び家族が受診支援している。また、月2回の往診も行われており、医療機関との連携が密接に行われ適切な医療支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりで入居者の状態に変化を感じた際は、常勤の看護師に報告し、指示のもと対応している。看護師からクリニックへの報告・相談も常日頃から密に行っており、受診等が必要な際はすぐに対応できる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の病状や日常生活の様子等、医療機関へ必要な情報提供を行っている。入院中も、相談員や病棟看護師と随時情報をやり取りしながら、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時には、ご家族と主治医との話し合いを行い、終末期に向けた今後の対応・方針をお伝えしている。その方針については職員に周知徹底を図り、チーム全体で支援するよう取り組んでいる。	看取りに関する指針や終末期介護、専門職の役割、終末期の生活支援に関する基本的考え方等を明記し入居時に説明し同意を得ている。常勤の看護師を配置しておりチーム全体で看取り介護について研修し体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを職員へ配布し、また事務所・スタッフルームへ掲示をしている。外部研修への参加を継続的にを行い、応急手当てや初期対応の知識を深めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の回数を、年2回から増やして実施している。今年度は夜間を想定した訓練も実施し、協力施設からの応援は受けたが、地域住民の協力は得られていない為、今後働きかけを行っていく。	消防署立会で避難訓練、消火訓練、通報訓練等を1回、その他2回は実施したが、職員全員が参加しての訓練にはならなかった。地域の協力体制も今後の課題である。備蓄はされている。	避難訓練等は職員全員が体験することが重要であり、夜間想定を含め、訓練回数を増やし職員の防災意識の向上を図るとともに、運営推進会議委員からも災害支援・協力についての意見が出されていることから地域の支援体制を整えて欲しい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへ尊厳の気持ちを忘れないように、声かけの仕方や言葉使いに注意しながら関わっている。親しみを込めて家族のように話すこともあるが、その際、まだ配慮に欠けてしまう時がある為、職員同士で注意を喚起している。	個人情報保護に関する法令等についても周知されており、利用者一人一人に合わせた言葉遣いや丁寧な声かけを心がけて行っている。個人情報に係る書類等も適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、なるべく自己決定ができるよう、利用者の体調やその時の気分に配慮しながら声掛け等を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、本人の希望や生活習慣等を大事にしながら、本人のペースに合わせた支援を行っている。また、入浴や就寝の時間についても、その都度希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等、着換えをされる際には、着たい洋服を選んで頂きおしゃれを楽しめるように支援している。また、月1回の訪問理容は希望に応じて利用して頂き、髪型等についてもご本人やご家族の希望に沿ってカットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事やおやつを準備する際、野菜の皮むき等利用者の出来る範囲で手伝っていただいている。また、食事の際は、職員も同じテーブルで、利用者と会話しながら楽しく食べていただけるようにして行っている。	食材や献立は外部に委託しているが、誕生日などの特別食などの場合は、職員と一緒に買い物に行き、メニューも独自のものにしている。利用者の出来る範囲で下準備の手伝いをされる方もいる。職員は同じテーブルで、利用者と話し合いながら、楽しい雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は、食材配達サービスを利用し、栄養バランスの取れた物を提供しており、カロリー計算もされている。食事形態は利用者一人ひとりの状態に合わせて提供し、栄養・水分の確保にあたっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけや介助を実施し、その際、口腔内の状態確認等も行っている。また、必要に応じ、訪問歯科の往診を依頼して状態維持できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを記録により把握し、出来る限りトイレで排泄できるように支援し、オムツやパットの使用も減らせるよう努めている。	生活記録や利用者の様子から、トイレ誘導を行っている。リハビリパンツ使用がほとんどであるが、支援効果によりトイレ利用が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、水分摂取量の把握を行い、体操や運動も促している。ヨーグルトや牛乳・食物繊維を多く含んだ食物を提供し、なるべく薬に頼らないようにしているが、排便困難者には下剤を使用し、看護師による排便コントロールを実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて入浴を実施し、体調面や身体状況によって入浴が困難な場合は、足浴や清拭にて対応し清潔保持に努めている。現在、夜間の入浴は実施していないが、今後必要があれば検討していく。	入浴時間は利用者の希望に合わせている。拒否される方には、声掛けや、同性介助をするなどで利用者に合わせている。脱衣場には利用者の実績表が貼られている。季節感を感じてもらうために、ゆず湯や菖蒲湯なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて休憩して頂いたり、就寝時間のリズムを崩さないように支援している。眠れない時等には、暖かい飲み物を提供したり、会話をしたりしながら、安心して休んでいただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを準備し、処方内容や臨時の頓服薬の把握に努めている。処方の変更や追加があった際は、看護師からの申し送りが徹底されており、職員へ周知できるよう連絡ノートにも記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、現在の能力のできる範囲での役割(洗濯物たたみ・掃除・調理等)を持っていただけるよう支援している。また、行事・外出等、利用者を楽しんでいただけるような企画も委員会が中心となり日々考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食、ドライブや散歩等、気分転換が図れる機会を提供している。ご家族の申し出による外出・外泊はあるものの、外出については地域の人々の協力はあまり得られていない為、今後の検討課題である。	事業所周辺の散歩や職員と一緒にの買い物などで気分転換を図っている。ドライブなどは事業所行事として行くことが多い。外食も楽しみなことから、昼食時に行くことが多く、地域行事などにも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中には個人でお金を管理している方がおり、買い物希望時はスタッフが同行し、ご本人の買いたい物を自由に購入して頂く等、自分の所持金を使えるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話することができる事を伝えている。また、電話使用の訴えがあった際には、随時、家族や知人への取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、その月や季節にあった壁画・習字や、市や地区の作品展に出展した作品等を掲示している。また、室温や湿度に注意し、季節の花を飾る等、季節感が感じられるような工夫も行っている。	玄関やホールには花やお雛様など、季節を感じさせる飾り付けがされている。職員と一緒に作成した折り紙もチューリップや桜と季節に合わせて掲示しており、季節により飾りも変えている。リビングも広々としており、リハビリを兼ねたボール遊びや折り紙を楽しむなど、それぞれがゆったりと居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、自由に席を移られたり、気の合う利用者と一緒にソファへ座って会話を楽しまれたり、テレビを観て過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各居室にはご家族の協力を得て、ソファやタンス、机等を持ってきていただいてご本人の希望にあわせて配置している。使い慣れた家具は少ないが、ご家族との思い出の写真等を持参され、いつも見られるように写真立てに立てたり、壁にかけたりして、一人ひとりの居室が個性的になるようにしている。	利用者それぞれが、筆筒やソファーなどを持ちこんでおり、自分の作品を壁に張るなど、利用者の個性に合わせている。ベッドの向きも利用者の使いやすいように配置されている。訪問客とも居室でゆっくり過ごすことができる。居室は個人名ではなく、部屋名の表示である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、居室内にセンサーライトを準備したり、自室が分からなくなってしまう方の居室には目印をつけるなどして、一人ひとりの状態に合わせた環境作りに努めている。		